職員室の廊下から大きな声が聞こえてきた。耳を澄まし聞いていると、どうも叱られているようだ。その内容は、わたしも気になっていたことなので、叱っているということにとても共感した。同時に少しうれしく思った▼声が格別に大きかったわけではない。校舎の構造上よく聞こえただけだ。怒鳴っているわけでもない。諭すように叱っている。怒ると叱るとでは違う▼先生は、こんなことを言っていた。「たのしくするのとふざけるのは違う！」まさにその通りだ。言葉のはき違えを教えながら、行動を正していくことは、大切な教育。「自由」と「勝手」、「古い」と「汚い」は違う。行動を言葉で裏付けながら、子どもに「判断基準」を教えていくのだ▼「先生に怒られるから」「おうちの人に怒られるから」そんな判断基準を持ってしまうと子どもは正しい判断ができない。根拠とともに正しい価値観を考えさせる。阿下喜小学校で大切にしている「説明できないことはしない」という考えにも結び付く▼あじみこきちの「き」は規範意識。「ルール」と「マナー」を学んでいくには、2通りのアプローチがある。教えるか考えさせるか。今日の先生は、教えた上で、考えさせていた▼シンプルに考えれば、「誰にも嫌な思いをさせない」「誰にも迷惑をかけない」といったところだろうか。叱るだけでは子どもは育たないが、ほめるだけでも育たない。

070411-2